

北海道医歌人会詠草

クマヤナギ

札幌 浜島 泉

白き花枯れて久しき雪の朝クマヤナギふと盛る面影
かつて鴨泳ぎしといふそのあたり老人施設われ通り過ぐ
硬筆は仕事短歌にはパーカーと使ひ分けて余命豊かに
あと八日百一歳の誕生日尋常ならぬ発熱兆す
急変の恐れありしにまた冬を迎へてまさに差し迫りつつ

生死断片

釧路 児玉 昌彦

爛れたる男女の仲は小説の世界に封じそつと本閉ず
四月から名字も変り転校の孫娘の写真賀状に微笑む
苦しみを引き伸ばさぬようこのままで見守りませうと家族に話す
医師もまた年齢とれば同じ病得て生あるものに例外はなく
一面に霧氷の華をつけし木も冬芽いだきて春を待つなり

別れのとき

栗山 高田 剛太

春の夜にビル・エヴァンスを聴き居れば想ひ出づるや過ぎし夢など
かのひとは嫁ぎてゆけり一通の手紙を吾に認めし
陽炎の揺れる空見て人生を静かに閉ぢしひともありけり
「じゃあまたね」元気でゐてね」と声交はし式終へし子ら校門を出づ
春風の如く旅立つ君は手を列車の窓に小さく振れり

エジプト旅行

旭川 稲積 文子

何処からの人等か知らねど吾がためにハッピーバースデーを歌うナイル川クルーズ
死後の世界に思ひをこめて作られしか石棺ミイラ紀元前五千年
人間の化石かとも見ゆ犯し難き雰囲気ただよひミイラが並ぶ
紀元前に栄えし国が未だなるを途上国と云わるは何故ならむ
エジプトの旅のつかれがまだ癒えず朝起きる時のけだるきことよ

論理・非論理

江別 三宅 浩次

若き日は論理すべてと学びしに年経るごとに非論理となり
医報の記事役に立たずと若き医師言ふはやはり若さの故か
音楽も美術も詩文も非論理か果たして医学はすべて論理か
教育を演繹法で積み上げて放り出された世界は非論理
屁理屈が論理顔してまかり出て本当は何か眉に唾する

地球温暖化

札幌 山口 康徳

気落ちせし国民喜ばせむと早春は仄かな暖を地に送りつく
北国の亀首伸し呟けり春はまだかの声耳を叩く
南国の基地の人々苦しむる騒音と事件粘り解決べし
全地球温暖進み小島没するを人類すべて心して視よ
多事業の実態知るや仕分け人国民ら思ひて更にはげめや

古きワープロ

札幌 古屋 統

寝付かれず睡眠導入剤服みに起つ妻の静かな寢息聞きつつ
ネルボンを割りて半錠ふくみたり夜間せん妄未だ起こさぬ
辛うじて壁にはり付き梯子なく命綱無き夢に覚めたる
回顧談頼まれ資料整へる古きワープロまだ出番あり
懐旧記コピー送れば電話来る苦労分かちし友生きてゐて

即位二十年

美唄 吉村 誠治

今日祝ふ即位二十年の御言葉に「ベルリンの壁」ありて驚く
象徴の国民への思ひ切切と起立して聞く我八十二才
金婚と即位二十年重なりて民の喜びいよいよ深し
奉祝の行事夜迄続きあるお疲れ見せず手を振り給ふ
時は良し皇室典範改正を国民の願ひ今ぞ固まる